

白藍塾オリジナル

2020入試小論文分析&解答のヒント

2020年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・総合政策学部

ここ数年、統計データの分析などを求める課題が続いたが、今年度は数年前までのパターンに近い。それでも、複数の資料を組み合わせて論じることが求められている点は変わらない。情報活用力が試されていると言ってよいだろう。

テーマは民主主義の現状。5つの課題文は、いずれも読みやすい。簡単に主旨をまとめると、次のようになる。

資料1は2017年以降、トランプ大統領の登場が、民主主義の危機を現実的なものにしてきている点を指摘している。資料2は、現在、様々な不平等が広まって、公平性を原則とする民主主義の原理が損なわれつつあることが説明されている。資料3は、先進国で移民の流入に対する国民の不満が高まって、多文化主義が疑われるようになった現状が説明されている。資料4は、テクノロジーの急激な発展が、民主主義の理想との間に矛盾を生じさせている点を指摘している。そして、資料5では、ソーシャルメディアではフェイクニュースほど広まりやすい点が指摘されている。

(1)は、「民主主義の後退」と呼ばれる現象がなぜ起きているのかを、資料1～5を関連づけながら論じる問題だ。論じると言っても、これは複数の資料から読み取れることを整理してまとめるというもので、事実上は説明問題に近い。資料2～5は、いずれも民主主義の後退の要因を部分的に説明する内容なので、それらをうまくまとめればよい。資料3では「民主主義」という言葉は使われていないが、多文化主義の失敗が多様性を重んじるリベラルな民主主義の理念を疑わせているという点で、民主主義の後退につながっていると言えるだろう。

(2)は、資料3を踏まえて、「日本は、これから多様性が提起する問題に向き合いながら、開かれた共同体を形づくることができるのか」を論じる問題。これは2部構成のA型を使って、イエス・ノーの形で書けるだろう。図表2～4は、解釈次第でどちらとも取れる内容なので、きちんと根拠さえ示していれば、どちらでも答えられるはず。もちろん、「可能か不可能か」が問われているので、単なる理想や希望を書いてはいけない。

(3)は、かなりややこしい。資料4の「民主主義はテクノロジーに合わせて設計はされていない。これは誰の落ち度でもない」という文が正しいかどうかという問いかけが最初にあるが、実際に求められ

ているのは、「ソーシャル・メディアが公共空間のあり方をどのように変容させたのか」を資料5と関連付けながら論じることだ。その上、「公共空間とは何かを自分なりに定義してから～」という条件に頭を抱える人も多いだろう。ただし、これは民主主義の基本理念がわかっているならば、「多様な市民が対等に議論を交わして合意を形成する民主的な空間」などと書けるはず。

したがって、書き方としては、まず公共空間の定義をズバリと示した上で、ソーシャル・メディアによってそのような公共空間が成り立たなくなっていること、そしてその理由（資料5にある、エコーチェンバーの効果）を説明すればよい。

200字しかないので、自分の考えを論じる余地はほとんどない。したがって、これも（1）と同様、説明問題に近いと考えるべきだろう。

（4）は、「各資料を日本に引きつけて読み直した場合、日本の民主主義の状況をどう診断できるか」を論じる問題。要するに、日本の民主主義も、英語圏などと同様に後退していると言えるかどうか問われている。これは、通常のイエス・ノーの4部構成で対応できるはずだ。

ただし、この問いにノーで答えるのは難しい。イエスで答えて、各資料の内容が日本の現状にも当てはまることを第3部で具体的に説明するのがよいだろう。ただし、資料3は、日本ではまだ移民が少ないので、そのまま当てはまらない。そこで、これを第2部の「確かに～」の部分に使うと、うまくまとまるはずだ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>